

アンケート調査へのご協力をお願い

拝啓 初春の候、先生におかれましてはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さてこのたび、日本産婦人科・新生児血液学会では学術研究事業として「回収式自己血輸血に関する後方視的研究」をさせていただくことになりました。

前置胎盤において癒着胎盤を合併していた場合、出血量は前置胎盤単独の場合よりさらに増加し止血のための緊急子宮摘出頻度が増加します。緊急子宮摘出術時の平均出血量は 3,000~5,000mL で cesarean hysterectomy が行われた症例の 90%に輸血が必要であったとの報告もあります。癒着胎盤が強く疑われる症例では特に術前の周産期管理が必要であり、米国産科婦人科学会 (ACOG) は「可能であるならばセルセーバーの用意を考慮する」を提唱しています。セルセーバーは回収式自己血輸血システムであり術中および術後に患者から出血した血液を回収し、生理食塩水で洗浄し赤血球を分離するためのシステムで、必要に応じ、患者自身の血液をその患者に返血でき、不必要な同種血輸血を回避するために用いられます。しかし、本邦において分娩時の回収式自己血輸血システムの使用はまだ一般的ではなく、使用報告はまだ少ないのが現状です。〔産婦人科診療ガイドライン産科編 2011〕より引用)

そこで、分娩中の回収式自己血輸血システムについて多施設アンケート調査を行い、後方視的にその特徴を明らかにします。また、結果をもとに分娩時の回収式自己血輸血システムの使用についての啓発に役立て、妊産婦死亡の発生を予防し今後の周産期管理に役立てることを目的にします。今回は 1 次調査ですが、回収式自己血輸血システム使用のご経験のあるご施設には、後日 2 次調査をお願い致します。

つきましては、ご多忙中、誠に恐縮に存じますが、周産期医療発展のためにご協力をお願いいたしたく、ご高配いただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

なお、本研究は北海道大学病院の倫理委員会の承認のもとで行います（臨床研究番号：自 013-0293）。2 次調査にご協力いただく際に貴施設での倫理委員会の承認が必要で、倫理委員会への提出のために研究計画書などの書類が必要な場合にはお手数ですがご連絡ください。

末筆ではございますが、先生の今後益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

平成 26 年 1 月吉日

日本産婦人科・新生児血液学会

理事長 小林 隆 夫

研究事務局 担当 森川 守 (同学会副幹事長)

北海道大学大学院医学研究科産科・生殖医学分野

〒060-8638 札幌市北区北 15 条西 7 丁目

電話：011-706-6051/ Fax：011-706-6051

E-mail mmamoru@med.hokudai.ac.jp